

- 水管理 : 中干し後は、落水期間が長めの間断かん水  
幼穂形成期以降は、飽水管理を行きましょう。
- 病虫害防除 : 化学合成農薬の成分使用回数は12以内となるよう留意し、  
コシヒカリに準じて実施しましょう。

## 生育状況

5月18日植えでは、近年より生育が4日程度遅く、幼穂形成期は近年並の7月16日頃（ただし、5月15日頃の田植えでは、幼穂形成期は7月14日頃）と見込まれます。

草丈およびm<sup>2</sup>茎数は近年並～やや少なく、葉色は近年並となっています。

表 水稻の生育状況（6月27日調査）

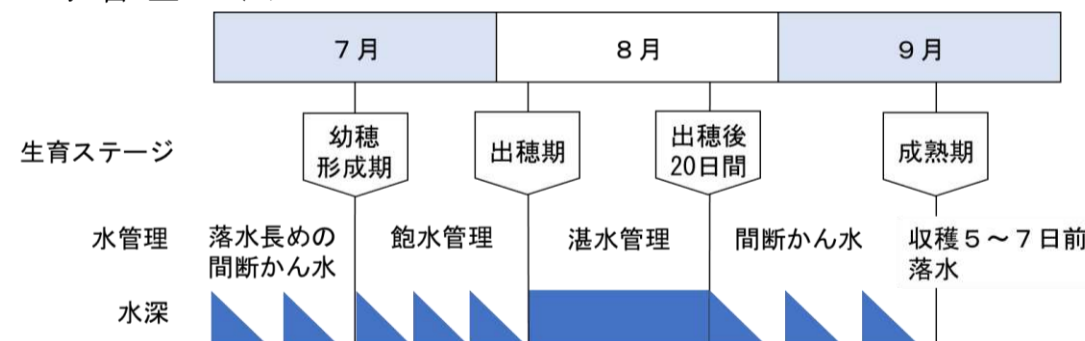
	田植日	草丈	茎数		葉齢	葉色		幼穂形成期
	月/日	cm	本/株	本/m <sup>2</sup>		葉色	SPAD	月/日
高岡（2ほ場）	5/18	36.6	23.0	455	9.1	4.3	38.9	(7/16)
県平均	5/16	41.3	25.1	546	9.8	4.4	39.6	(7/15)
近年（高岡）	5/13	41.9	26.7	573	10.0	4.4	40.0	7/12

近年値はH29～R4の値  
幼穂形成期は予側値

## 水管理

- (1) 中干し後～幼穂形成期 : 富富富は葉色がやや濃く推移することから、落水期間が長めの間断かん水を行きましょう。
- (2) 幼穂形成期～出穂期 : 稲体や根の健全化のため、飽水管理を行きましょう。
- (3) 出穂期から20日間 : 胴割米の発生を防ぐため、湛水管理を行きましょう。

<水管理のイメージ>



## 穂肥

- 【全量基肥】 : 原則、追加穂肥は施用しない。ただし、幼穂形成期の14日後の葉色が薄い（群落葉色4.2未満）場合は、出穂3日前（走り穂の頃）までに7kg/10a程度を施用しましょう。
- 【分施肥体系】 : 穂肥の1回目を幼穂形成期の7日後頃（幼穂長15mm程度）に5～7kg/10aを施用し、2回目を1回目の7日後に10kg/10aを施用しましょう。

## 病虫害防除

- (1) 化学合成農薬の成分使用回数は12以内を遵守しましょう。
- (2) カメムシの対策として、畦畔・雑草地などの草刈りを行い、その後も草の穂が出ないように管理しましょう。

○ご不明な点は JA 高岡担当営農指導員 または 高岡農林振興センター 高岡班 (26-8477) までお尋ねください。